

# 早期水稻栽培ごよみ

平成28年 3月作成

防除時は隣接ほ場の耕作者に声をかけ、風向・風速に注意し飛散防止につとめましょう。

農薬は、ラベルの記載内容を確認のうえ適正使用に努めましょう。

月旬	3月		4月		5月			6月			7月			8月	
	下	上	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
品種	コシヒカリ	田植		中干し			穂肥	出穂			收穫		登熟日数30日程度		
	イネシイヒカリ	田植		中干し			穂肥	出穂			收穫		登熟日数35日程度		
生育	活着期		分けつ期		最高分けつ期		穂ばらみ期	出穂期	乳熟期	糊熟期	黄熟期	成熟期			
主な管理	水管理	深水		間断灌水		中干	深水			間断灌水		落水			
	作業	田植		周辺除草	中干し		周辺除草	穂肥	周辺除草	カメムシ防除 (自主あるいは航空防除)	落水		收穫		
病害虫防除	発生	イネミズゾウムシ				いもち病		紋枯病		カメムシ		重点防除			
	イネミズゾウムシ	活着期に多発が予想される場合は、トレボン粒剤などで防除する。													
	いもち病	葉いもちの発生が見られる場合は、ただちにブラシン粉剤DLなどで防除する。穂いもち防除は、穂ばらみ期に、穂枯れや紋枯病、ウンカなどの同時防除として、ノンブラストレバリダ粉剤DLなどで防除する。													
	紋枯病	例年被害のある水田では、穂ばらみ期(出穂前30日~10日)に、モンカット粒剤を散布、また、発生がみられたら、バリダシン粉剤DLで防除する。													
除草剤基準	除草剤名	10aあたり使用量	対象雑草		使用時期		処置方法		使用上の注意						
	初・中期一発剤	ザークD粒剤17	3kg	水田1年生雑草及びマツハイ、ホタルイ、ミスガツリ、ウリカワ等		移植後5日~ノビエ3葉期、ただし移植後30日前まで		湛水散布		・整地、代かきはいぬいに行う ・田面の露出がないように湛水し散布する ・散布後3日間は、3~5cmの湛水深で管理 ・植え込みや活着していないときは、活着するまで、散布を遅らせる					
		イネキング1キロ粒剤	1kg	水田1年生雑草及びマツハイ、ホタルイ、ミスガツリ、ウリカワ等		移植直後~ノビエ2.5葉期、ただし移植後30日前まで		湛水散布							
		サラブレットフロアブル	500ml	水田1年生雑草及びマツハイ、ホタルイ、ミスガツリ、ウリカワ等		移植直後~ノビエ2.5葉期、ただし移植後30日前まで		原液湛水散布または水口施用							
		ミスターホームランジャンボ	10パック	水田1年生雑草及びマツハイ、ホタルイ、ミスガツリ、ウリカワ等		移植後3日~ノビエ2葉期、ただし、移植後30日前まで		水田にパックのまま投げ入れる		・湛水深を5~6cmにし、水の出入りをしっかり止め 畦畔から均等に投げ込む					
		クラッシュEXジャンボ	10パック	水田1年生雑草及びマツハイ、ホタルイ、ミスガツリ、ウリカワ等		移植後3~10日(ノビエ2葉期まで)									
	後期剤	クリンチャー1キロ粒剤	1.5kg	ノビエ、キシウスズメノヒエ、アゼガヤ		移植後25日~ノビエ5葉期、ただし、収穫30日前まで		湛水散布		・広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。					
	クリンチャーEW	100ml	ノビエ、キシウスズメノヒエ、アゼガヤ		移植後20日~ノビエ6葉期、ただし、収穫30日前まで		湛水散布又は落水散布		・使用の際は展着剤を加用する。 ・漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。						
他	モゲトン粒剤	2~3kg	藻類(アオミドロ、アミドロ)・ウキクサ類		雑草の発生始~発生盛期、ただし、収穫45日前まで		湛水散布								
施肥設計	体系	肥料名	10aあたり施用量・成分量			本田管理のポイント									
	コシヒカリ口	きもつき骨粉入り高度264	30kg	基肥		穂肥		ちっそ成分		田植時期	寒波のおそれがあるときは避ける。				
		NK5号又はNKC3号	5kg					4.3~4.4kg		栽植密度	80~70株/坪(株間14~16cm)、一株3~5本植え				
	イクヒカリ	きもつき骨粉入り高度264	40kg					6.1~6.3kg		施肥	施肥設計を参考に、地力の高いほ場は施肥を控えめに。穂肥の遅れや過多はタンパク率が上がり、食味を落とす。				
		NK5号又はNKC3号	10kg												
省力肥料	水稻一発くん(早期用)	50kg					6kg								
土づくり	良質堆肥	1,000kg							穂肥適期	コシヒカリ: 出穂18~20日前(幼穂長5mm~10mm) イクヒカリ: 出穂20~25日前(幼穂長1mm~10mm) 穂肥適期に葉色が濃い場合は穂肥はしない。					
	アイアンサポート	20~40kg	植付前の土づくり(植付前に施用)												
	シリカサポート1号	40~80kg	茎や葉を丈夫にし、倒伏軽減や登熟効果を高める目的(穂肥時などに施用)												
農薬安全使用基準	農薬名	対象病害虫	散布量	使用時期	使用回数	水管理									
	ノンブラストレバリダ粉剤DL	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類等	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	田植後の生育初期は保温管理による活着、分けつ促進。寒波の恐れああるときは、深水として、掛け流しはしない。4月下旬から間断かん水を行う。5月下旬の中干しを徹底する。台風時は深水とし、稲体の水分蒸発を防ぐ。									
	ブラシン粉剤DL	いもち病、ごま葉枯病等	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	不稔防止									
	スタークル粒剤	ウンカ類、カメムシ類等	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	出穂期前後の10日間は深水管理を基本とする。幼穂形成期以降低温(17℃以下)が予想されるときは深水。									
	スタークル液剤10	カメムシ類、ウンカ類等	1000倍で60L~150L	収穫7日前まで	3回以内	落水									
	トレボン粒剤	イナゴ類、ウンカ類、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ第1世代	2~3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	カメムシ対策									
	トレボン粉剤DL	カメムシ類、ウンカ類、イネミズゾウムシ成虫等	3~4kg/10a	収穫7日前まで	周辺の雑草地、牧草地、畦畔、本田内のヒエ雑草が出穂しないように、地域で計画的な環境整備を徹底する。畦畔除草は5月上旬、6月上旬、出穂前の3回が目安。										
スクミノン	スクミリンゴガイ	1~4kg/10a	移植後(収穫60日前まで)	2回以内	收穫適期										
						1株の中の3~5番目に長い茎の穂の青靱割合が10%程度になったときが收穫適期。									

